

(様式1)

学校番号 ①・中 050

令和7年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立(大瀬小学校)学校運営協議会長

<本年度の目標>

学校と地域が手を取り合って、子供に寄り添った支援活動を進めよう。

<評価項目1> 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

⇒ ア よくできた ① できた ウ あまりできなかった エ できなかった
(理由)

1.方針の深い理解と共有

校長による丁寧なグランドデザイン説明により、教育目標やコミュニティ・スクールの位置付けについて、新任委員も含めた全員が具体的なイメージを持って共通理解を図ることができた。

2.地域連携への前向きな対話

学校側の要望に対し、地域人材をいかに発掘し協力していくかという点について活発な議論が行われた。一方で、今後はさらに一歩踏み込んだ深い熟議を目指すことが課題とされた。

<評価項目2> 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

⇒ ① よくできた イ できた ウ あまりできなかった エ できなかった
(理由)

1. 地域資源を活かした具体的な成果

無形文化財である『遠州大念仏』の実演など、地域の歴史や産業をテーマにした学習が大きな成果を上げた。コーディネーターからの報告を含め、学校側のニーズと地域の強みが合致した、質の高い熟議ができた。

2. 連携の強化と効率化の進展

LINEを活用したボランティア募集など、時世に合った手法を導入したことで、地域住民の参画が昨年よりスムーズになった。学校・家庭・地域が役割を分担しながら、子供たちを支えるコミュニティの絆が着実に強まっている。

<評価項目3> 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

⇒ ア 充分に行った ① 行った ウ あまり行わなかった エ 行わなかった
(理由)

1.既存媒体の活用と対話による波及効果

学校だより、CSだより、HP等での定期的な発信に加え、協議会での熟議が深まったことで、委員自身の発信力も向上した。自治会だよりへの掲載や、口コミといった『横のつながり』による情報伝達に手応えを感じているという意見が多く聞かれた。

2.対象の拡大と発信内容の精査

保護者への周知は速やかに行われたが、就学児童のいない世帯への浸透が依然として課題。また、行事の報告だけでなく『協議会で何が決まったか』という結果の発信を強化することや、他校との情報交換の場を設けるなど、より広域で効果的な手法の検討が必要である。

<評価項目4> 今年度の評価を踏まえた来年度の目標

1.『発信力』から『巻き込む力』への転換

今年度強化した情報発信を土台とし、来年度は自治会との連携をさらに深め、地域全体の関心を高めるフェーズに移行。特に「自治会だより」の活用や顔の見える関係づくりを通じて、就学児童のいない世帯も含めた、より広い層を学校運営に巻き込んでいくことを目指す。

2.地域格差の解消と支援の主体的な発掘

地域によって支援活動に差があるという課題に対し、自治会長連絡会との連携強化や、委員一人ひとりが「地域からできる支援」を主体的に提案・発掘していく姿勢を重視する。小規模校ならではの密な交流を大切にしながら、子供たちの笑顔あふれる学校・地域を一体となって創り上げていく。